

Rotary Club of AMA weekly report.



2018~2019年度 国際ロータリーテーマ
**インスピレーションに
なろう**

事務所 〒453-0015 名古屋市中村区椿町17番16号 丸元ビル
TEL(052)451-6617 FAX(052)451-6710 e-mail: kk01-ama@eos.ocn.ne.jp



2018-2019年度
RI会長 バリー・ラシン
第2760地区ガバナー 村井 総一郎
会長 大竹 敬一
副会長 家田 安啓
幹事 加藤 徹

例会日 毎週月曜
例会場 名鉄グランドホテル

【会報委員会】
委員長 山田 広明・神戸 剛
伊藤 英毅・山田 幸治

2019年4月15日（晴れ） 第2週 第2268回例会

Song ”我等の生業”

Attendance

会員	78名	欠席	13名	出席率	80.30%
----	-----	----	-----	-----	--------

3月分修正出席率の報告

3月4日出席率	100%	欠席	0名
3月11日出席率	100%	欠席	0名
3月25日出席率	100%	欠席	0名

President Time

大竹敬一 会長



本日は、クラブアッセンブリーです。昨日の地区研修協議会のご報告をいただきます。と言いましても、私自身は、地区研修・協議会には参加しておりません。地区研修・協議会は、次年度の為の研修会だから、現会長は出席対象者ではないのです。次期役員の方のご報告を楽しみに伺いたいと思います。

以前の例会で、私は平成最後のあまRC会長であり、令和最初の会長でもであると申しました。あまRC50年の節目の年に新年号になるという事は、何か縁を感じますし、令和はやはり田中年度と共にスタートすると言っていいと思います。

さて、今日は同時に50周年式典前の最後の例会です。関係ない話ですが、私は昨日床屋さんに行きました。友人には「床屋さん代がもったいない」と言われますが、50周年直前に行くより、少し早目にと行って行った次第です。いよいよ近づいてきたなと思います。これまで高山実行委員長始め各委員長さんたち中心にIDMを重ねてこられ、準備万端で当日を迎えられると思いますし、会員の皆さんが何かの委員会に所属して、皆さんで参加し、皆さんで楽しむ周年になればと願ってやみません。

クラブの事で、お願いが2点あります。戦略委員会などで、クラブの委員会の再編を議論しています。クラブフォーラムを開く予定もありますので、皆さんのご意見をお聞かせください。もう一つは、遅きにしましたかも知れませんが、Myロータリーにまだご登録でない方は、是非ご登録ください。今日も有意義な例会にしましょう。

Today	4月27日（第2269回）
担当	高山敏 創立50周年記念行事実行委員長
演題	創立50周年記念行事 (4/22例会振替)
Next Week	5月13日（第2270回）
担当	中島英之 青少年奉仕委員長
演題	卓話 「子供達の未来の為に言葉の大切さを伝える」 一般社団法人ハッピートークアカデミー協会 理事 永山雅美氏

Secretary Report

加藤 徹 幹事

- 1 次週4月22日（月）は例会振替による休会です。次回例会は4月27日（土）創立50周年記念例会です。
- 2 山田幹夫君が第4回米山功労者に寄付されました。

ニコボックス

ご投函有り難うございます

大竹敬一 会長

地区研修・協議会、お疲れ様でした。

50周年が近づいて来ました。皆さん、よろしくお願ひします。

家田安啓 副会長

50周年式典が迫って参りました。皆様、よろしくお願ひします。

加藤 徹 幹事

先週山田広明君と今シーズン初のナゴヤドームに行つて来ました。3対2でドラゴンズ逆転勝ち。今年は期待できそうです。

山田幸治君

山崎川の桜を観たのが4月4日で満開でした。弥富公園や名古屋城にも桜を見に行きました。

藤田隆志君

昨日の地区研修・協議会に参加の皆様、お疲れ様でした。本日例会で発表の皆様、よろしくお願ひします。

水野 眞君

中電ホールの39回名古屋小唄大会無事終了。4月1日大須商店街の新元号発表会に招かれ、紅白餅巻きをしました。テレビで放映、中日新聞の記事取材。大正昭和平成令和4代、軍人経験者として。長く生きたものです。

山田尊久君

地区研修・協議会の特別講演、柳生好春さんの「行動を呼びかけものにする。ストーリー仕立てにする」戸の言葉が印象的でした。

後藤袈裟美君

ニコボックスの皆さん、ご苦労様です。

河瀬文一君

ニコボックスの皆さん、ご苦労様です。

北野庸夫君

体力は回復したつもりですが、RCのゴルフ会で大タキしました。めげずに頑張ります！！

黒川元則君

地区研修・協議会参加の皆さん、お疲れ様でした。藤田隆志副幹事、ご苦労様でした。

黒野晃太郎君

地区合唱祭、18日です。聴きに来て下さい。

中澤浩一君

ニコボックスの皆さん、ご苦労様です。

田中正博君

昨日は地区研修・協議会に参加していただいた方、お疲れ様でした。

谷口充子君

昨日の地区研修・協議会、お疲れ様でした。本日報告させていただきます。よろしくお願ひします。

山田幹夫君

昨日の地区研修・協議会参加の皆様、ご苦労様でした。第5分科会の報告をさせていただきます。

合計 34,000円

地区研修・協議会参加報告

第1分科会 加藤 徹君



会員増強と危機管理そしてロータリーの活動を広く一般の人々に届けるWWFに関する分科会でした。

伊藤ガバナーエレクトのリーダー挨拶からスタートした

のですが、ガバナーエレクトが感じて見えるロータリーの未来に関する強い危機感が伝わってきました。しかしそこはさすが次期のリーダー、「知的多様性」と「革新的柔軟性」を磨くことでロータリーの未来は開かれると自信をもって伝えてくれました。難しい言葉なので理解はできませんでしたが、続いての神野地区拡大WWF 実行委員長、澤田会員増強委員長の講話を聴いているうちに、「ロータリーの素晴らしい活動を世代を超えたこれまで以上のより多くの人

たちと共に行っていきましょう、そしてそれを実現するための変革はどんどんためらわずにやっていきましょうという内容ではないかとじわじわと考えさせられました。

世代を超えたより多くの人々にロータリー活動を伝えることが出来るWWF。第7回の今年は昨年に引き続きポリオ撲滅活動を世間に伝え、その収益金はパキスタンにおける教育支援ユニットとして届けられるとのことでした。

第2分科会 大西晃弘君



第2分科会は各クラブの副会長、SAA、クラブ奉仕委員長が参加されており、主に会員増強・クラブ運営・例会についての研修が行われました。

分科会のテーマは「クラブをより強化しよう」。地区研修委員長をはじめ、ガバナーノミニ、地区研修委員の方からのお話がありましたが、大きくは次の2点に関するお話でした。一つ目は、会員増強、特に新会員研修についてです。会員増強は会員数を増やすことが目的ではなく、クラブを強くすることであること。新入会員を放置していませんか？という問いかけがあり、将来にわたってクラブを強くするために、新会員に対してのしっかりとしたケアが重要であるとお話でした。クラブの評価は会員数や寄付金の額ではなく、ロータリーの奉仕の理念を理解して実践するリーダーをいかに育てたかであり、そのためにも新会員を大切に育ててほしいとお話が繰り返されました。

二つ目はクラブ運営、特に例会についてです。当たり前のことではありますが、ロータリークラブにとっては例会が一番大切であることを再認識してほしい。会長挨拶についてもロータリーに関することを含めてほしい、また例会時挨拶や卓話時には私語を慎むことなど細かい点についても様々なお話がありました。またクラブの細則についてもお話がありました。例会内容や行事、各委員会について毎年棚卸を行い、クラブの状況や地域の変化に対応し常の細則の見直しを行ってほしいとの要望が出されました。

私自身は次年度プログラム委員長の立場で、卓話を通じて例会の充実に取り組んでまいりたいと思います。

第3分科会 神戸 剛君



テーマ「次年度公共イメージ向上委員会（委員長）の役割

公共イメージ向上委員会とは 地区広報委員会と地区IT委員会を一緒にした委員会です。

基本方針

ロータリーが、意義ある活動を行っているのに、認識されていない、内外に知ってもらう手段としてロータリーの公共イメージ向上が必要不可欠であり、メディア・マイロータリー・ホームページ・ロータリーの友などを利用して、各クラブの活動計画の立案・実行の広報活動を促していきます。

広報には内部広報と外部広報があります。

内部広報とは 他のクラブへの広報 クラブ内の広報

外部広報とは ロータリー以外への広報

外部広報について

＊積極的に、マスコミを活用していく。プレスリリースで活動を伝える。

＊ワールドフードふれ愛フェスタなどのイベント

内部広報について

＊地区ホームページ

＊会報・マイロータリー・ロータリーの友・クラブホームページを利用する。

まとめ

・メンバーが減少している。それをカバーするにはどうするのか、公共イメージ向上委員会の役割は重要である。認知度が上がれば会員増強につながる。

・ロータリーの認知度を上げる為に、マスコミ・マイロータリー・ホームページ・ワールドフードふれ愛フェスタ・ロータリーの友などの活用が必要である

各クラブの積極的な広報活動をお願いします。

第4分科会 稲垣秀樹君

3年前に地区研修・協議会 第4分科会の発表をさせていただきましたので、今回で2度目ということになります。今回も、社会奉仕部門と国際奉仕関連部門の2部門が合同で開催されました。



まず、社会奉仕委員会についてです。地区社会奉仕委員会では、各クラブの皆さんが、社旗奉仕活動を進めやすくするための情報提供を行っています。例えば、講師の委員が各クラブに卓話に伺ったり、時には愛知県の関連部署の方をお連れして、各クラブのサポートをさせていただいております。地区社会奉仕委員会は、各クラブから出向した15人の委員で構成され、社会奉仕・環境保全・RCCの3つの小委員会に分かれています。1つ目の社会奉仕については、名古屋大学防災・減災センターでの講義・体験の話があり、見学等のご案内がありました。環境保全活動については、「あいち生物多様性戦略2020」の情報を各クラブに提供していく方針は継続する。自然との共生を図り、生物多様性損失を防止することなど、多くのクラブがこのテーマに取り組み、地道な活動が行政など様々な団体から高く評価されている。しかも、この活動が継続して行われていることが大変意義深いというお話がありました。その他、東山動物園の桜の回廊プロジェクトを紹介していた。これらの取り組みは、単なる植樹だけに終わるのではなく、その後のメンテナンスをどう行っていくか、行政と連携して推進していくことが重要である。

次に、国際奉仕委員会についてです。地区の役割としては、他クラブの取り組み情報の提供と、取り組み先の現地のロータリークラブのやNPO団体の情報を提供し、国際奉仕活動を推進しやすくするようサポートしていきたい。今回、グローバル補助金を用いた国際奉仕事業の事例発表がありました。グローバル補助金事業は大変だというイメージがありますが、比較的順調に事業が推進できた名古屋大須ロータリークラブの事例発表でした。

ロータリアンが寄付しているお金が3年後にロータリー財団から各地区に戻ってきます。2760地区では、戻ってくるお金が、だいたい8,000万円の半分ぐらいで、そのうち2,000万円が地区補助金、残りの2,000万円がグローバル補助金として使えるお金である。使われないと、そのまま財団にプールされます。世界的に見ても、日本はこのグローバル補助金をあまり使っていませんので、もっと有効に活用しましょう、との要請がありました。

第5分科会 山田幹夫君



まず最初に職業奉仕に関する委員会を各クラブでどのように行っているか、この3年間における調査報告があった。半分以上のクラブでは職場訪問で例会を開催し、その半分はクラブ会員の企業訪問である。また、その他は卓話例会で、主として外部よりの招聘による場合が多いとの事である。まとめの中で「職業奉仕は5大奉仕の中で一番理解が難しいにもかかわらず、ロータリー活動の中では一番重要と考えられる。なぜならば職業奉仕を通して企業が成り立たなければ、他の社会・国際・青少年・ロータリー財団などの奉仕活動は成り立たないからである。」との話があった。また最後に近江商人、二宮尊徳、夏目漱石、渋沢栄一、本田宗一郎氏等の職業に対する考え方の紹介があり、ロータリークラブの職業奉仕の考え方との共通点の紹介があった。

第6分科会 真木伸一君



財団は年次基金\$150/人、ポリオプラス基金\$30/人恒久基金・大口寄付によって成り立っています。ポリオプラスは1985年にスタート。ポリオ発症数は1988年には35万人いましたが、2018年アフガニスタン21名、パキスタン12名の33名に減らすことが出来ました。

補助金としてはとしては地区補助金・グローバル補助金があり、次年度は地区補助金70%、クラブ拠出金30%になります。そしてグローバル奨学生、平和フェロー委員会があります。ロータリー財団への関心を深めるように、マイロータリーへの登録を推進しております。今後共ロータリー財団へのご理解とご協力をお願いいたします。

第7分科会 黒川元則君

第7分科会青少年部門に出席させて頂きました。85クラブの青少年奉仕委員長、関連委員長、18インターアクト顧問の先生、8ローターアクトの役員を含め200



名余りの定員の中、岡田次期地区青少年奉仕委員長より、関連委員会のセパレートを無くし、ひとつにまとまると言う基盤の考えでテーマを「広がる青少年奉仕」、

また地区大会と同日に青少年フォーラム開催の報告がありました。その後、各委員会から次年度に繋ぐ委員会の説明、活動報告がありました。現在青少年プログラムに関り、参加している青少年の数が900名余りで、平均在籍年数が3年未満、400名が毎年入れ代わっているのが現状だそうです。それには地区だけでの対応では限界があるので各クラブで青少年ファミリーとタイアップして事業を実施して頂けるようお願いしたいと言う事でした。これからの日本、未来を担う子供達、また将来のロータリアンをつくれるよう尽力していきたいと思った研修会でした。

第8分科会 水谷安紀君



国際ロータリー第2760地区2019-20年度地区研修協議会第8分科会「未来へ向かって、世界平和への架け橋になろう」に出席しました。その報告です。

ロータリー米山記念奨学事業とは全国のロータリアンからの寄付金を財源として日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際事業です。将来日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することが事業の使命です。今回は「寄付増進について」「奨学生選考について」「世話クラブの役割について」「地区委員会の活動とは」について話を聞きました。奨学生選考に当り、今は貧しいのではなく日本を理解してくれる奨学生を選ぶ。選考に当っては競争率が高く大変だと知りました。ですから優秀な学生が多いとのことでした。次に奨学金を渡すのは振込ではなく、月1回例会に出席して手渡しにより理解を深める。外国人には日本人と違う考えの受取り方があるので、パワハラ・セクハラに気を付けるなどの話がありました。分科会は100分ありましたので、沢山勉強してまいりました。田

中年度が始まりましたら米山記念奨学委員会への寄付を宜しくお願いします。

第9分科会 谷口充子君



第9分科会は、入会3年未満の人の会ということで、まず最初に村井ガバナーの方から、ロータリーとは、ロータリーの目的、といったお話がありました。次に、

伊藤ガバナーエレクトからは、ロータリーが今後どうなっていくべきか、どこを目指していくべきか、とのお話がありました。特に、世界的にもロータリークラブのメンバーが減少している。それに加えて、日本が抱えている少子高齢化という人口の逆ピラミッドの中で、いかに持続可能なロータリークラブを作っていくかが大きな課題だとおっしゃっていました。

とにかく、一人一人が『知的多様性』と『革新的柔軟性』を取り入れ、行動していかなければいけない、という事を何度も強調されていました。そして、行動するにあたっては、現ガバナーの村井さんが教えて下さったロータリーの理念をベースに、「グローバルな視点で考え、地域社会とつながり、ロータリーを成長させよう」という伊藤年度の地区方針を掲げられていました。「グローバルな視点で考える」という点に関して、ロータリーで長年寄付を続けているポリオについて、現在患者数が29人のところまできている。これまで、『ポリオ撲滅』を掲げてきたが、新年度からは『ポリオ根絶』を掲げていく。という事でした。

さて、この第9分科会に限らず、本会議でも、多くの方が、何度も繰り返されていたキーワードは、『変革』とか『革新』でした。それを果たすために、今求められるものは多様性を受け入れる力、変化への柔軟な適応力であると。

これらのお話を通じて、以前、行動経済学における『現状維持バイアス』について学んだことを思い出しました。変化するということは、当たり前ですが、現状を変えるということです。人間には、変化を起こす際に伴うリスクを避けたい、という心理が強く働くとされています。『現状維持』を選択すれば、状況が今より悪くなるリスクも、批判に身をさらすリスクも負う必要がなく、無駄な労力も払わなくて済みます。人間は元来、何もしなくて良い理由を探

して、それによって非合理的な行動を選択するようで、これを現状維持バイアスと呼ぶそうです。ロータリアンに、革新的な変化が求められている今、まずは、自身の中に現状維持バイアスはないかという点にも向き合いながら、サステイナブルなロータリークラブの運営を模索していければと思います。



ロシア紀行 24

山田幸治君

広場の中央には、アレクサンドルの円柱が立っています。高さは48メートル、直径約4メートル、重さ600トンです。1812年の対ナポレオン戦争の勝利を記念してたてられました。何の支えもなく、自重だけで立つ一枚岩の花崗岩です。



凱旋アーチ

